



ホーム 電子デバイス産業新聞 ポロポロになった取材ノートは語る 記事

▶ サイト内検索はこちら Site Search

ポロポロになった取材ノートは語る
～半導体業界最古参記者 泉谷浩の独り言～

バッテリー産業 最前線 2023

主要バッテリーデバイス・材料・資源・設備メーカー各社の最新動向

「鉄腕アトムを創りたい」という男が画像の新世界を切り開く

元ソニーの萩原良昭氏が開発したPPDは超優れものデバイス

2020/11/13

「鉄腕アトムを創りたいというのが、ソニーに入社した動機であった。そしてまた、みんなが夢を共有していくというソニーの基本哲学は、自分にマッチングしていると考えた。IEEE主催の国際固体集積回路会議(ISSCC)の委員長をやらせていただくなど活躍の場を与えられ、今でもソニーには感謝している」(萩原氏)

眼光は炯炯として鋭く、口調も滑らかにこう語るのは、ソニーで半導体の中樞を駆け抜けた人物として知られる萩原良昭氏である。萩原氏は1948年に京都に生まれ、洛星高校を1965年に中退し、南カリフォルニアに在住してRiverside市立高校に編入。1967年にカリフォルニア工科大学に進む。1972年には、修士課程そして博士課程を終えて、1975年にソニーに入社する。大阪・枚方の酒屋の出身の父親は、大手映画会社の東映の美術監督であった。京都奈良の寺社や町屋を歩き、建築写真を撮る父親に小学校時代よくついて行った。



ソニーの半導体で活躍した萩原良昭氏

萩原氏を語るうえで何とんでもピカイチの業績は、ダブル接合型受光素子であるPPD、別称Hole Accumulation Diode (HAD)の開発に1978年に成功したことである。これはまさに快挙ともいえるべき出来事であり、この原理が今日のソニーの半導体を支えている裏面照射型のCMOSイメージセンサーに結び付いていく。